

11 あきらめと無関心

●「ハチドリの一とせずく」

『ハチドリの一とせずく』という絵本が注目されています。

ある森が火事になり動物たちが逃げ出しました。象やライオンが何もできず、呆然としてみると、1羽のハチドリが行ったり来たりしています。見ると水辺にいて口に水をひとしずくふくんで、燃えさかる火の上に落ちていました。そんなことをしてなんになるという周りの冷たい問いかけに対して「わたしはわたしのできることをしているだけ」とこたえるお話です。

自分にできることをあきらめずに続けることの重要性を訴えています。

●マザー・テレサの訴え

マザー・テレサは、インドの Kolkata で貧しい人々のための活動をはじめ、その活動は後進の修道女たちによって全世界に広められています。マザー・テレサが設立した修道会の目的は「飢えた人、裸の人、家のない人、体の不自由な人、病気の人、必要とされることのないすべての人、愛されていない人、誰からも世話されない人のために働く」ことでした。

ノーベル平和賞を受賞し、日本を訪れたマザー・テレサは、日本はもっとも豊かな国であるはずなのに孤独な老人がさびしく生活していたり、お互いに無関心な様子に驚き、次のようなメッセージを記しました。

「狭い路地を何度も曲がって歩きました。私がショックだったのは、酔っ払った中年の男の人が路上に倒れているのに、誰も手をさしのべ

る人がいなかったことです」
「けさ、私は、この豊かな美しい国で孤独な人を見ました。この豊かな国の大きな心の貧困を見ました」

「カルカッタ（今の Kolkata）やその他の土地に比べれば、貧しさの度合いは違います。また、日本には貧しい人は少ないでしょう」

「でも、ひとりでもいたら、その人はなぜ倒れ、なぜ救われず、その人に日本人は手をさしのべないのでしょうか。」

その人が飲んだくれたから？
でも、彼もわたしたちも兄弟です。
本人はきっと孤独でしょう。
みなから無視されての……

やけ酒かもしれません」
「私は、短い間しか日本に滞在しないので手を貸してあげるの、せんえつだと思ひ、何もしませんでした。もし、女の人が路上に倒れていたらその場で、語りかけたり、助けていたと思ひます。」

豊かそうに見えるこの日本で、心の飢えはないのでしょうか。

だれからも必要とされず、だれからも愛されていないという心の貧しさ。

物質的な貧しさに比べ、心の貧しさは深刻です。



心の貧しさこそ、一切れのパンの飢えよりも、もっともつと貧しいことだと思います。日本のみなさん、豊かさの中で貧しさを忘れないでください」

そして愛情の裏返しは憎しみではなく、無関心であると述べました。熱帯雨林の伐採

や世界人口の6分の1が毎日十分な食事がとれないこと、12億人が十分な水もないこと、そのことに無関心であり続け、GNPの成長や個人の豊かさを追い求めることは、気づかぬうちに心の環境破壊をおこしているのではないのでしょうか。



▲1981年、来日した際のマザー・テレサ

■プロフィール



マザー・テレサ

（本名アグネス・ゴンジャ・ボヤジウ）
1910年8月26日に現在のマケドニアに生まれました。カトリック教会の修道女で、修道会「神の愛の宣教者会」の創立者です。

1973年テンブルトン賞、1979年ノーベル平和賞、1980年にはインドで国民に与えられる最高の賞、バーラ・ラトナ賞など多くの賞を受けました。1996年にはわずか7名しかいないアメリカ名譽市民に選ばれています。1997年9月5日 Kolkata でなくなりますが、2003年、当時の教皇ヨハネ・パウロ2世によって聖人に列せられました。



▲マザー・テレサが運営するインド・ Kolkata の子どもたちの家